

看護ケアの質評価と改善

研究の成果と今後の発展に向けて

1993 (平成 5) 年に、厚生省看護対策研究事業として「看護ケアの質の評価基準に関する研究」という課題に取り組みはじめてから 17 年が経過した。“看護ケアの質とは何か”という壮大な課題に取り組んだことが本研究の出発であった。以来、看護ケアの質はどのように“測る”か、測定したデータをどのように“評価”するか、そして、2008 (平成 20) 年からは質の評価に基づきどのように“改善”に活かすか、という課題に発展的に取り組み現在に至っている。これら一連の研究は、「看護 QI (Nursing Quality Improvement) 研究会」を組織して活動を継続し、幸いにも研究補助金をいただくことができ、本研究を進展させることができた。また、このプロセスでは研究課題を探索するための方法の開発を並行して行なってきた。本号でもこれまで、第 28 巻 4 号 (1995 年)、第 29 巻 1 号 (1996 年)、そして第 31 巻 2 号 (1998 年) などで成果を発表してきた。

一連の研究内容と成果を概観すると、当初の研究では、質評価基準の探求の後、現場を訪問して評価するという、第三者による評価ツールを開発した。しかしこの方法は、評価者の確保、訓練、費用の面から大きな転換を求められた。その結果、インターネットを用いた自己評価型「Web 版看護ケアの質評価総合システム」の開発に至り、指標の見直しを加え、運用に至っている (<http://nursing-qi.com/>)。

評価システムが稼働するようになり、次の課題は、質改善につなげていくためのシステム構築であり、現在は蓄積されたデータを活用したベンチマーク、グッドプラクティスの提示、改善への動機づけシステムの構築に着手している。

本焦点では、今後の質研究の展開を視野に、現段階での本研究班の成果を整理するとともに、米国にて開発された質評価指標である NDNQI® (the National Database of Nursing Quality Indicators®) の開発、ANCC (American Nurses Credentialing Center) によるマグネットホスピタル認証プログラム (Magnet Recognition Program) に基づくマグネットファシリティ認定と NDNQI® の戦略、質改善に向けた新たな試みに関する論文を含めて構成した。

看護の質評価と改善が発展し、看護ケアの発展に役立っていくことを願っている。

(企画：上泉和子 青森県立保健大学副理事長・副学長／健康科学部教授)